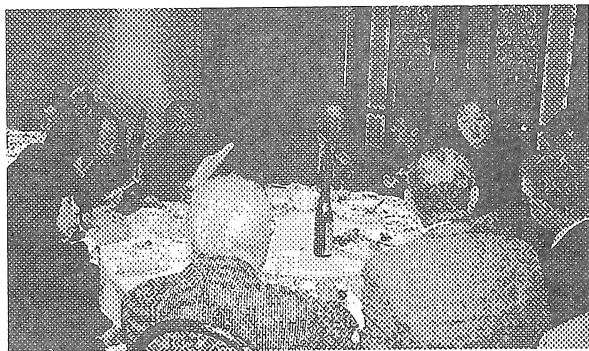


ドイツの留学生も交えた “望年会”に参加して



和やかに語らう望年会の一駒

大津亜矢子（海老名市在住）

去る12月10日、湘南日独協会の「忘年会」ならぬ「望年会」にお誘いいただき、いそいそと出かけました。会員でない私が…？の一抹の不安は会場の笑顔一杯の雰囲気ですでに消え、あっという間に過ぎた楽しい夜となりました。

歌あり、プレゼントあり、そして初対面の方が多かったにもかかわらず、たくさんの方々といろいろなお話ができ、本当に楽しかったです。大変美味しい食事と、とても楽しい時間で、2時間はあっという間。皆さんともっとお話していたかったので、去りがたい私は会員の方に誘っていただいたダンスの体験レッスンに直行しました。こちらがまた「頭でなく体で覚えるステップ」と称して初心者の私達にわかりやすいようにご指導いただき、感激！ああ、楽しい夜だったわ、と帰路につきました。

日本全国にある日独協会とは、何をするとところなのかと常日頃興味を持っていましたが、その晩のまとめは、日独協会とは「ドイツ」を共通項として繋がる＆広がる「ご縁」なんだと感じました。湘南日独協会の方々とは過ごせた楽しい一時のご縁に、心からの感謝です。ありがとうございました！

湘南日独協会2005年度活動予定

■ 1月21日(土)第43回例会

映画鑑賞会「アマデウス」

お話 宮下啓三氏

日時 2006年1月21日(土) 午後2時 開始

会場 藤沢市民会館大ホール(藤沢駅より徒歩8分)

■ 2月24日(金) ワイマール市民来訪団晩餐会

2月25日(土) 歓迎交流会 14:00～18:00

於:鎌倉芸術館 ※詳細は別途お知らせしました。

■ 3月25日(土) 第44回例会・年次総会

映画会*音楽劇映画

「モーツァルト青春への旅路」

モーツァルトの手紙をもとに、この天才が最も生長した7才から22才までの記録を忠実にドキュメンタリー化したドイツ映画です。真実のモーツァルト像に迫る現在唯一の映画であるばかりでなく、劇映画としても迫真に迫る内容を持ち、今なお「アマデウス」を凌ぐほどの評判が高いものです。ドイツ語で演じられていることも彼の手紙に真実みを加えています。

会場 湘南アカデミアサロン

■ 4月22日(土)18:00～ 会員懇話会

卓話 「月沈原」が読めますか…

岩本哲氏(会員)

会場 湘南アカデミアサロン

会費 500円 懇親会は別席で各自自弁。

湘南日独協会会報(Der Wind)

VOL. 8. NO. 1. 通巻43. 発行 2006. 1. 21.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

合唱団「アムゼル」熱唱！

横浜オクトーバーフェスト



横浜 Oktoberfesta 9 / 30(金)～10/10(月)

赤レンガ倉庫前広場にて 11:00～21:00 開催

※10/5(水)の夕刻、合唱団アムゼルが出演して大変好評を博しました。詳細は大久保明氏が前号(会報42号)にレポートしていますのでご覧下さい。

写真はステージで演奏する「アムゼル」の皆さん。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

新入会員紹介(12月1日現在・敬称略・順不同)

揖斐曉美 高野光司 野一色朝一 志田麻衣
上田葉子 風間嘉郎 越智隆夫

思い出を再現してくれたチターの調べ

2005. 12. 09

会員 松野 義明



内藤敏子氏のチターの演奏

45年以上も昔のこと、私は物理学の一学徒としてウィーンに学んでいました。量子力学の巨星エルヴィン・シュレーディンガー教授のご講義を拝聴したり、ゼミに参加したり、仲間と議論したり、興奮と緊張に満ちた日々でしたが、夏休み間近のある夕べ、数人の友人とホイリゲンロカールに飲みに行こうということになりました。映画好きの友人の案内で訪れた店が“ANTON KARPAS Wehschenke Zum dritten Mann”でした。名画『第三の男』のテーマ音楽を作曲し自身で演奏した世界的チターの名手アントン・カラスが創設した『第三の男』という名前の酒場です。ワインを飲みながら、一切の増幅装置を通さないチターの原音を初めて耳にしたとき、こんなに優しい音の世界があったのだなあ…と、瞬時にして緊張が解消し、心が安らぎました。音楽そのものに感動したことはもちろんですが、楽器の持つ豊かな表現力に驚きました。翌朝、その話を下宿の小母さんにしたら、「そんなに気に入ったのなら、私が若い頃よく弾いたチターをあげるわよ。」と物置の奥から埃まみれのケースに入った少し壊れたチターを探し出してきて「いつまでもウィーンを忘れないでね。」と、いっしょに私にくれました。

何年か後に、そのチターを大切に日本に持ち帰りましたが、当時の日本には残念ながら修理や調整をしてくれる楽器屋さんがありませんでした。私蔵して

いたのですが、某音楽大学に展示用として活用してもらうため寄付させていただきました。しかし、初めてチターを聴いたときの心の安らぎや感激、それに下宿の小母さんの優しい心遣いは、懐かしい思い出として私の心から消え去ることはありませんでした。

そんな「思い出」を私の中に鮮やかに再現してくださったのが内藤敏子さんのチター演奏と心温まる楽しいお話でした（2005年11月26日の例会）。アントン・カラスの「ハリー・ライムのテーマ」、「カフェー・モーツアルト・ワルツ」、ルドルフ・スィエシンスキの「ウィーン我が夢の町」など私の記憶の中で45年以上も熟成されてきた旋律が芳醇な香とともに蘇ってきたのです。2拍目の四分音符を心もち長めに取りウィーン独特のワルツのリズム、ウィーン独特のグリッサンド、優美なピアノシモなど高度な演奏技術を駆使し、楽器の持つ表現力を最大限に活かして、内藤さんはご自身の繊細な心の動きを余すところなく表現なさいました。曲と曲のあいだのお話からは、このチターと云う素晴らしい楽器に対する深い愛情と、その素晴らしさをたくさんの日本の人たちにぜひ知って欲しいという情熱がひしひしと感じられました。日本チター協会のますますのご発展を祈る次第です。

この日は、豊かに満ち足りた心を家に持ち帰ることができました。



かまくら国際交流フェスティバルの一瞬(11月13日)

撮影：三谷喜朗氏

映画「バルトの楽園」制作開始！！

このほど、第一次世界大戦中の奇跡的な史実を壮大なスケールで描く感動大作映画『バルトの楽園』が製作される運びとなりました。

この映画は、第一次世界大戦時の徳島にあったドイツ人捕虜収容所において、収容所長・松江豊寿^{とよひさ}を始めとする日本人とドイツ人捕虜が言語、民族、習慣を超えて素朴な人間愛を育み、ドイツ人捕虜によって日本で最初にベートーベン『交響曲第九番 歓喜の歌』が演奏されたという史実に基づいた感動大作です。

主人公・松江豊寿に、テレビドラマ『暴れん坊将軍』で25年間主役を務め、数々のNHK大河ドラマの出演歴を誇り、昨年リリースされたCD『マツケンサンバII』が大ヒットを記録するなど、今や国民的スターとなった松平健。共演には、カンヌ映画祭最優秀監督賞受賞作『ベルリン・天使の詩』同賞パルム・ドール受賞作『永遠と一日』で主役を務め、大ヒット映画『ヒトラー～最期の12日間～』でアドルフ・ヒトラー役を演じ話題となったブルーノ・ガンツが決定しています。松江豊寿の妻を演じる実力派女優・高島礼子。日本を代表する名バイプレイヤー・岡村 隼。『ガメラ 大怪獣空中決戦』でブルーリボン賞最優秀助演女優賞を受賞した中山忍。ハリウッド映画『SAYURI』に大抜擢された大後寿々花。ドイツからは、ドイツのブラッド・ピットの異名をとるオリバー・ブーツ。演劇監督の父とバレリーナの母を持つ、若手人気NO. 1の実力派俳優のコステア・ウルマンなど、全世界に発信する大作映画に相応しい顔ぶれが揃っています。6月初旬の封切が今から待たれますね。

■映画「第三の男」について語ろう！

日時 2月24日(金) 午後6時開会

会場 湘南アカデミアサロン(江ノ電第2ビル7F)

会費 500円(要申込み)

申込み 湘南映画友の会 TEL 0466-26-3028